

古事記を読む会 2015年2月22日 NO.9

1月25日（日）午前10時から第9回古事記を読む会が開かれました。初めて県の埋蔵文化財センター会議室を使わせて頂きました。そして、安念所長さんから関連した解説をしていただき感謝申し上げます。大仙陵古墳では、世界遺産を目指して周囲の木を切っている等、新情報も頂きました。鈎の意味では、盛り上がりましたが、文字についてもっと調べたいと思いました。任海宮田遺跡から出土した鑰（かぎ・やく）について想像して聞いておりました。

さて 今回は、NO8のしおりに書いてあるところを含めて中つ巻を読み終える予定です。分からないなりに、それぞれに読み進み、いよいよ、次回からは下つ巻に入ることになります。

4月の新年度はどのように進めたらよいでしょうか。これまでの進め方を振り返って、下巻が終わったあとの読む会の進め方について話し合いたいと思います。今回の終わりには是非皆様のご意見を伺い、次年度にいかしたいと思います。

◎応神紀（前会のメモ）

- ・天皇は皇子のオオヤマモリとオオサザキに『年長と年少ではどちらが愛しいか？』と問うたが、年かさのオオヤマモリは『年長』と答え、オオサザキは応神の心中は幼子のウジノワキイラツコにあることを察して『年少』と答える。
- ・ウジノワキイラツコの母との出会いや、息子のオオサザキに自分が見初めた女性を譲る譚などが続く。
- ・治世中に渡来人が様々な技術を持ってきた様子が語られる。
- ・天皇はウジノワキイラツコを後継者に指名するが、天皇没後、年かさのオオヤマモリは天皇の遺命を不服としウジノワキイラツコやオオサザキたちと皇位継承を争う。
- ・オオヤマモリを破った後、後継者に指名されていたウジノワキイラツコは自分より兄のオオサザキが大君に相応しいとして皇位を譲ろうとしたが、オオサザキはそれを断りその後互いに譲り合いを続け周囲を困らせた。
- ・そんな中、ウジノワキイラツコが突然亡くなってしまい、止む無くオオサザキが即位する。
- ・アメノヒボコ伝説が突如として挿入され、更にその後何の命脈も無いような（？）兄弟神が一人の女性を巡って争う話が続く。（近藤メモ再来）

さて、3月の会は、都合によりしません。

4月12日が次年度の1回目になります。

スタートに当たり、初めに総会とし、予定などを確認します。

なお、今後の進め方については是非ご意見を伺いたいのので、よろしくお願ひします。